

第5章

リーディングプロジェクト

第5章では、本市の環境の現況や課題、地域特性などを踏まえ、本計画で掲げる目標の達成に向け、計画推進の初動を促し、先導的な役割を果たす事業をリーディングプロジェクトとして位置づけ、その実施内容、役割及び進行管理指標などについて明らかにしています。

平成23年3月計画策定当初に4つのリーディングプロジェクトを設定しましたが、原子力災害の影響による環境変化などを踏まえ、現状に対応したものとするため、今回の計画改定に合わせて大幅な見直しを行いました。

- | | | |
|---|-------------|----|
| 1 | だての自然再生大作戦！ | 80 |
| 2 | ごみダイエット大作戦！ | 82 |
| 3 | 省エネ・創エネ大作戦！ | 84 |

(1) プロジェクトのねらい

森林・農地・河川など、本市が誇る豊かな自然環境の保全に努めるとともに、原子力災害の影響による環境汚染対策として、放射線量低減化などの取り組みも合わせて行うことで、本市の自然環境の再生を図ります。

(2) 各主体の取り組み

■伊達市の取り組み

◇放射性物質による影響への対策

①放射線量の低減に向けた取り組み

農地や森林などの除染、吸収抑制対策などにより、放射性物質*の効率的・効果的な除染・低減を図るとともに、国・県や大学などの研究機関と連携し、放射性物質*対策技術の研究開発・導入を推進します。

【農政課、農林整備課、放射能対策課】

◇環境負荷の少ない持続可能な農業の推進

②環境保全型農業の推進

関係機関と連携し、「ふくしま型有機栽培」、「ふくしま型特別栽培」などの有機栽培や減農薬栽培への取り組みを促進するとともに、エコファーマー*の育成、認定促進に努めます。

【農政課】

◇森林環境の保全・整備

③健全な森林整備の促進

森林環境税や補助金などを活用して、間伐や下草刈りなどの森林づくりや、間伐材などのエネルギー利用による森林再生を推進します。

【農林整備課】

◇野生動植物の適正な保護・管理

④有害鳥獣による被害防止対策の推進

イノシシ、ハクビシン、ニホンザル、カモシカ、及びカラスなどの有害鳥獣による農作物被害防止対策の推進に努めます。

【農政課】

◇生活排水処理対策の推進

⑤合併処理浄化槽の設置促進

公共下水道認可区域外、農業集落排水事業整備区域外の地域では、合併処理浄化槽の設置費助成などを通じて生活排水の適切な処理を推進します。

【下水道課】

◇水質浄化対策の推進

⑥自然環境に配慮した河川整備・管理

関係機関と連携し、生態系*などに配慮した多自然川づくり・管理を推進します。

【土木課】

■市民の取り組み

- モニタリング調査により安全が確認された農産物などについては、積極的に消費しましょう。
- 森林観察会や里山整備などの環境保全活動に積極的に参加しましょう。
- 野生動物(鳥獣)に餌を与えないようにしましょう。また、被害防止のための対策を講じましょう。
- 下水道への接続や合併処理浄化槽の設置・維持管理により、生活排水の汚濁防止に努めましょう。

■事業者の取り組み

- 農業従事者は、有機栽培や減農薬栽培など、環境負荷の少ない農業に取り組みましょう。
- 森林や里山整備などの環境保全活動に積極的に参加しましょう。
- 事業活動に伴う排水は敷地内において適正に処理し、基準値を超えないようにしましょう。
- 地域における河川やため池などの清掃活動、環境美化活動などに積極的に参加しましょう。

(3) 進行管理指標

	環境指標 ◎ 成果指標 ○ 取り組み指標 ● モニタリング指標*	単位	現状		目標	
			年度	数値	最終(H32)	
1	● 環境放射線モニタリング*調査 (代表地点:市役所本庁舎・分庁舎・総合支所)	μsv /時	H25.11		モニタリング指標* (減少をめざす)	
				保原本庁舎		0.29
				梁川分庁舎		0.23
				伊達総合支所		0.20
				霊山総合支所		0.26
				月舘総合支所		0.20
2	○ エコファーマー*の認定者数	人	H24	114	130	
3	◎ 間伐面積	ha	H23	94	200	
4	◎ 鳥獣による農林業など被害金額	万円	H24	142	142	
5	◎ 小国川の水質基準(BOD*75%水質値)	mg/l	H23	1.7	1.5	
6	◎ 広瀬川の水質基準(BOD*75%水質値)	mg/l	H23	1.1	1.0	
7	◎ 古川の水質基準(BOD*値)	mg/l	H23	10.2	7.0	
8	○ 合併処理浄化槽処理人口普及率 (合併処理浄化槽設置人口/市人口)	%	H24	22.6	35.0	
9	○ 合併処理浄化槽設置基数(補助金交付対象)累計	基	H24	2,504	4,603	

(1) プロジェクトのねらい

ごみの減量化は、環境保全のための重要な取り組みのひとつであり、また、近年はごみ質が多様化し、処理する上で大きな問題となっています。

そこで、市民、事業者、そして市が連携・協働して3R*の推進に取り組むことで、ごみの抑制、再利用、再生利用に努め、ごみの減量化を図ります。

(2) 各主体の取り組み

■伊達市の取り組み

◇ごみの減量化

①マイバック持参運動の促進

県事業の「ストップ・ザ・レジ袋」実施店などにおけるレジ袋削減を推進するために、毎月8日、9日のマイバック推進デーの周知・啓発などを通じて、マイバックの持参運動を促進します。

【環境防災課、商工観光課】

②生ごみ減量化の取り組み促進

生ごみ減量化処理機購入補助金制度(電動生ごみ処理機、コンポストなど)の周知に努め、同制度の利用を通じて生ごみの減量化を図ります。

【環境防災課、総合支所】

③マイ箸、マイボトル、マイカップなどの取り組み促進

マイ箸、マイボトル、マイカップなどの携行・利用を促します。市役所職員は率先してこれらの利用に努めます。

【環境防災課】

④事業系ごみの減量化、適正処理の推進

伊達地方衛生処理組合に持ち込まれる事業系ごみについて、分別や減量化を推進します。特に、不燃ごみやリサイクル可能な古紙類などについて、事業者自らによる資源化と適正な処理を促進します。

【環境防災課】

◇再利用・再生利用の促進

⑤資源ごみの回収促進

プラスチック製品、紙類などの資源物指定品目の分別徹底を周知するとともに、再利用・再生利用のさらなる推進のため、新たな資源物指定品目の検討を行います。

【環境防災課、総合支所】

⑥小型家電リサイクル制度に関する取り組み

資源の有効活用と環境汚染防止のため、小型家電リサイクル制度による分別回収の早期実施に向けた実証実験などの調査を行います。

【環境防災課】

■市民の取り組み

- 買い物の際は、簡易包装商品の選択に努めるとともに、マイバッグやマイバスケットを持参するなどして、レジ袋の利用を控えましょう。
- マイ箸、マイボトル、マイカップなどの携行・利用に努めましょう。
- 家庭から排出される生ごみは廃棄物とせず、堆肥化して有効活用に努めましょう。
- ごみはきちんと分別しましょう。特にプラスチック製品や紙類は分別を徹底し、可燃物ではなく資源物として排出するようにしましょう。

■事業者の取り組み

- リサイクル可能な古紙類は可燃ごみとして出さず、適切に分別回収して古紙リサイクルに努めましょう。
- 卸売り・小売業では、商品の簡易包装や梱包材などの発生抑制に努めましょう。また、消費者にレジ袋の利用を控え、マイバックやマイバスケットを利用するように呼びかけましょう。
- 事業系ごみは決められた排出ルールを守り、排出者の責任において適正に処理しましょう。

(3) 進行管理指標

	環境指標 ◎ 成果指標 ○ 取り組み指標	単位	現状		目標
			年度	数値	最終(H32)
1	◎ 一人一日当たりのごみ排出量	g	H24	1,039	871
2	◎ ごみ総排出量	t	H24	24,816	20,000
3	◎ リサイクル率	%	H24	12.5	20.0
4	◎ 古紙類再資源化量	t	H24	1,545	2,200
5	○ 生ごみ処理機購入助成件数	件	H24	14	30

(1) プロジェクトのねらい

原子力災害を契機として重要性が高まっているエネルギーに関して、省エネルギー対策の推進などによるエネルギー消費量の削減や、再生可能エネルギー*の導入促進、地域資源を活用したエネルギーの開発などによるエネルギー創出の取り組みを一体的に推進することにより、環境にやさしい地域づくりをめざします。

(2) 各主体の取り組み

■伊達市の取り組み

◇環境負荷の少ない生活様式の推進

①環境教育の一環としての取り組み

福島議定書、福島エコチャレンジ、環境家計簿などによって身近なエネルギー使用状況に注目し、環境教育の一環としての省エネルギーの取り組みを推進します。【環境防災課、学校教育課】

◇エネルギーの効率的な利用の推進

②省エネルギー機器の普及促進

省エネラベリング制度*に関する情報を通じて、省エネ性能の高い家電製品の普及促進に努めます。

【環境防災課、商工観光課】

③市の率先した省エネルギー行動

公共施設に LED 照明を率先導入します。また、公共施設にスマートグリッド*通信インタフェースを導入し、エネルギーマネジメントシステム*を構築することにより、最適なエネルギー利用、エネルギーの見える化などに取り組み、省エネルギーの促進と CO₂排出量の削減に努めます。

【環境防災課、各施設担当課】

◇再生可能エネルギーなどの普及促進

④太陽エネルギーの利活用促進

家庭や事業者に対して、補助制度の活用などを通じた太陽光発電や太陽熱利用の普及促進に努めます。

【環境防災課】

⑤公共施設への再生可能エネルギー設備導入

クリーンエネルギーを活用した地域の防災拠点施設としての機能を強化するため、公共施設に太陽光発電システムなどの再生可能エネルギー*設備導入を進めます。

【環境防災課、総合支所】

⑥再生可能エネルギーの普及促進

再生可能エネルギー*の導入費用の負担軽減を図るほか、地域による取り組みが可能な未利用エネルギーなどの活用のための調査・研究や設備導入に対する支援を検討し、エネルギーの地産地消や住民参画の促進を図ります。

【環境防災課】

◇環境に配慮した事業活動の促進

⑦環境マネジメントシステムの取り組み促進

市内の事業者に対して、環境 ISO*やエコアクション21*などの環境マネジメントシステム*について、情報提供などを通じて普及促進に努めます。

【環境防災課】

■市民の取り組み

- こまめにスイッチを切る、電気製品の待機時消費電力を削減するなどの取り組みにより、家庭での節電に努めましょう。
- 福島エコチャレンジなどの参加型啓発イベントに積極的に参加しましょう。
- 環境家計簿や省エネナビなどのツールを活用するなどし、日常生活における環境負荷を定量的に把握し、行動を見直しましょう。
- 冷蔵庫やエアコンなどの家電製品を買い換える際は、省エネラベルを確認し、省エネ効果の高い製品を選択しましょう。
- 再生可能エネルギー*(太陽光発電など)や、エネルギーの高度利用技術(ヒートポンプ、燃料電池など)の導入に努めましょう。

■事業者の取り組み

- コピー機やパソコンなどの OA 機器や照明器具は、昼休みなど長時間使わない際はこまめに電源を切りましょう。
- 白熱電球は、省エネ効果の高い LED へ切り替えましょう。
- 設備の設置、更新に際しては、エネルギー効率の高い設備の導入に努めましょう。
- 再生可能エネルギー*(太陽光発電など)や、エネルギーの高度利用技術(ヒートポンプ、燃料電池など)の導入に努めましょう。
- 福島議定書や福島エコチャレンジなどの参加型啓発イベントに積極的に参加しましょう。
- ISO*14001やエコアクション21*などによる環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷の少ない事業活動に取り組みましょう。

(3) 進行管理指標

	環境指標 ◎ 成果指標 ○ 取り組み指標	単位	現状		目標
			年度	数値	最終(H32)
1	◎ 市の事務事業に伴うCO ₂ 排出量	t-CO ₂	H24	6,722	6,200
2	○ 住宅用太陽光発電設置補助件数(累計)	件	H24	254	800
3	○ 福島エコチャレンジ事業参加団体	団体	H24	9	20
4	○ 公共施設におけるLED照明導入箇所数	ヶ所	H24	2	10
5	○ 公共施設における太陽光発電設備導入箇所数	ヶ所	H24	1	10
6	○ 福島議定書参加学校数	校	H24	13	20
7	○ ISO*14001認証取得事業者数	事業所	H24	17	20
8	○ エコアクション21*認証取得事業者数	事業所	H24	1	5



伊達市の鳥
『せきれい』